

# 筑波大学構内循環バスにおける時間帯別遅延発生状況

麻生紘平（地球科学専攻）

## 1. はじめに

筑波大学構内循環バスは道路混雑や多客時の乗降時間による遅延の発生が著しい。このことから、筑波大学構内循環バスにおける遅延の発生状況を調査し、実態を明らかにすることは重要であるといえる。同様の研究は、空間情報科学野外実験の一環で渡邊(2012)が行っているが、調査対象が朝夕時間帯に限られているうえ、左回りのみで調査を行っている。したがって、全日かつ双方向での遅延状況の把握が必要であった。

## 2. 研究方法

1日を7時間帯に区分し、それぞれの運行にGPSを携行し乗車し、停留所を発車あるいは通過した時点でGPSのポイントを打ち、正規の発車時刻との差を測定した。なお、調査は、2016年2月9日、10日の二日間にわたって行った。初日である9日は右回り、10日は左回りで行った。

## 3. 考察

事例として、6限目が終了する時間帯である18:10前後の遅延発生状況を図示した。この図から分かるように、ほぼ同一の時間帯においても方向によって遅延の発生状況が異なることが分かる。講義施設の集中するループ西側からつくばセンターに向かう左回りでは、乗降による遅延と道路渋滞から、終点付近において8分前後の遅着が発生している一方で、逆方向の右回りではこれほどの遅着はみられない。



第1図 夕刻時間帯における右回りの遅延発生状況



第2図 夕刻時間帯における左回りの遅延発生状況